

◇巡検の記録◇

千里山・伏見・奈良盆地巡検（4月11日－14日）

4月11日13時30分に千里中央駅前に集合した私たちは、先ずマップ・リーディングによる駅周辺地域諸事象の分析・把握の指導を受けた。

次いで、万博公園内にある国立民族学博物館を訪れ、様々な民族の生活を垣間見たのであるが、豊富な資料とスケールの大きな組織力は注目の一点であった。

同日、大阪・淀屋橋を経て、伏見で巡検最初の夜を迎えた。

12日9時30分には中書島駅前を出発し、京大防災研宇治川水理実験所を尋ね、水循環・地震・風等々に関する緻密な実験の数々を見学して回った。

京都伏見では、歴史・地域性などについてゼミが行なわれたが、野外調査には、予備知識を蓄えるのも重要なポイントであることを実感させられた。

また、平城宮跡発掘調査部では、平城京の空中写真・発掘物の展示と併行する興味深い解説を受けることができた。

三日目には、奈良女子大のマイクロバスをお借りして、武久、千田両先生の卸案内のもとに、奈良での見学を行なった。まず奈良バイパスを南に走り、大和郡山市の城下町の町並と金魚の養殖場を見学。市役所の方にもお話を伺うことができた。それから若槻の環濠集落を見学し、大和川と佐保川の合流点に位置する浄化センターに向かった。ここでは、きれいに整備された施設を見下ろして、センターの方の説明を聞いた。その後、宗教都市天理を訪れ、そこで昼食となった。宗教都市というものに足を踏み込んだのは初めてだったが、壮観な構えのおやさと館が並立する眺め、午後二時の警鐘とともに黙禱を捧げる黒いはっぴを着た同世代の青年男女のかもしれない特異な雰囲気、等々、宗教都市の外郭に接する良い機会となった。そのあと、桜井を経由し、寺内町今井へ。重要文化財に指定されている豊田家を興味深く見学し、三日目の日程を終えて、奈良女子大に戻った。

四日目最終日の見学コースは、明日香だった。運良く天候に恵まれ、明日香ののどかな田園風景は、日本の春の美しさを存分に味わわせてくれた。古代人の生きた姿に思いを馳せながら、太陽の光を浴びて、明日香の道を楽しく歩き、猿石、鬼の俣、川原寺、板蓋宮を経て、飛鳥寺が最終地点となった。

初めての巡検ではあったが、地図表現の範囲と限界を確認し判読技術を会得するワンステップとなったのは確かで、今後地理を学んでゆくうえでの大きな刺激となった。

（式 先生指導 2年 畑 裕子・藤沢 彌生）